頭高山の野草

ASK13歩く会

2017年4月13日

◎ヒメウズ（姫烏頭）キンポウゲ科

繊細な多年草で、地下に塊状の地下茎（塊茎）を作る。塊茎は楕円っぽい不定形でその先端から根出葉と花茎を出す。
よく育つと枝分かれして増える。

◎コウゾリナ（剃刀菜） キク科

葉や茎に先が2つに分かれた剛毛がある。
触れるとひげをそった後のような、じょりじょりした
感触があることから、剃刀を連想してカミソリ菜・
カオソリ菜が訛ってコウゾリナ。

◎キランソウ（金瘡小草）　シソ科

別名ジゴクノカマノフタ（地獄の釜の蓋）は、
葉が放射状に広がって地面にへばりつくことに
由来する。

◎ヤマルリソウ（山瑠璃草） ムラサキ科

山地の木陰や道端などに生える、高さ7～20cmの多年草。
大きな株を作り次々と可愛い花が開く。

◎ハナイカダ（花筏） モチノキ目に属する落葉低木

別名、ヨメノナミダ（嫁の涙）。
北海道南部以南の森林に自生する。
葉の上に花が咲くのが特徴である。

◎キジムシロ（雉筵） バラ科

根元の葉を四方に広げた様子を、キジの座る筵に見立てた名。
よく似ているミツバツチグリは、小葉が3枚に対しキジムシロは9枚ある。

◎カノコソウ（鹿の子草） オミナエシ科

別名ハルオミナエシ、上から見るとぽつぽつとした蕾が鹿の
子絞りに
見えることから、この名がついた。
屋町のやや湿ったところに生える。

◎クサイチゴ（草苺） バラ科

丈が20～60㎝と低く、草のように見えるため、このように呼ばれるが実際は木本である。全体に短い軟毛が密生し、茎にはとげがある。

参考
ヘビイチゴ

◎ウグイスカグラ（鶯神楽） スイカズラ科

鶯が泣き始めるころに花が咲くところから、この名前になったらしい。
ラッパ状の淡いピンクの花を咲かせ、長さ1㎝ほどの楕円形の果実ができ、
6月ころ赤く熟し、日が当たると透き通るような美しさがあり、食べると甘い。

◎ホタルカズラ（蛍蔓） ムラサキ科

日当りの良い山野の乾いた草原や林縁、林の中の半日陰草地に生える。
春に出た茎は細くて直立し、花後、根元から横に地面を這うようにツル状に長い
所々から根を出して、翌年その先に新しい株を作る。
葉は互生し、柄がない細長い楕円形で長さ2～6cm、濃緑色で表面に粗い毛が
茎や葉など全体に開出する粗い毛が多い。冬季も茎葉は枯れない。

◎オドリコソウ（踊り子草） シソ科

花の形を笠をかぶった踊り子の姿にたとえたもの。
山沿いの半日陰の草地などに見かける。

ピンク色

白色

参考

オドリコソウは日本原産の花であるが、明治時代にヨーロッパから渡来し花の形が似ていて小さいのでヒメオドリコソウ（姫踊り子草）と呼ばれる花が最近全国に分布を広げている。

◎カキドオシ（垣通し） シソ科

花が終わるころから茎が永く伸びて、垣根を潜り抜ける様子からついた名。
葉縁はこまかい鋸歯状で、葉身をもみつぶすと芳香があります。葉形がお金（銭）のようで茎が連がっていますから、連銭草（れんせんそう）の名前があります。
また、子供の、かんを取り除く薬というので、疳取草（かんとりそう）の名もあります。

◎ムラサキケマン（紫華鬘） ケシ科

日本全土のやや湿ったところに生える。高さ20～50cm。全体がやわらかく、傷つけるとやや悪臭がある。葉は2～3回羽状に細かく裂ける。花は茎の上部にびっしりと総状につき、紅紫色で長さ1.2～1.8cm。まれに花が白いものもある。

華鬘は仏堂を飾る仏具である。

◎クサノオウ（草の黄・瘡の王） ケシ科

茎を切ると黄色の乳液が出ることから、「草の黄」とする説と、皮膚病の民間薬とし
用いられたことから皮膚病の総称である瘡の字が入り「瘡の王」とする説がる。
有毒植物であるが、外用には湿疹に、クサノオウを乾燥した、「白屈菜」を煎じて、
その煎じ汁で患部を洗います。
また、いぼ、たむしには、生の茎葉のしぼり汁を何回かに分けて塗ります。

◎カスマノエンドウ（カスマグサ＝カス間草）

＊ブロガーのコメント

なんと、我が家の隣の空き地に、カラスノエンドウ、カスマノエンドウ、スズメノエンドウの三兄弟？　が、全員集合していたのです。
写真はカスマノエンドウと思うのですが・・・　間違っていたらごめんなさい。　大きなカラスノエンドウと小さなスズメのエンドウの中間に当たる大きさです。「カ」と「ス」の「間」ということで、カ・ス・マと名付けられたとか。
カスマノエンドウは、カラスノエンドウよりも、葉っぱが細いように思います。　スズメのエンドウは、これよりさらに小さくて細かいです。　子どもの頃、カラスノエンドウで遊んだ記憶がありますが、こんな種類があるとは気がつきませんでした。

比較

カラスノエンドウ（烏野豌豆）

スズメノエンドウ（雀野豌豆）

★ 違いが分かりますか

☆ こちらの方が、分かりやすいですね

◆見分けのポイント

	茎・葉	
カラスノエンドウ	●茎は50～90cmの高さになり，3種のうち最大。 ●茎は有毛。 ●巻きひげは枝分かれする。 ●托葉に蜜腺がある。	
スズメノエンドウ	●茎は30～50cmの高さになる。 ●茎に多少毛があるか，あるいは無毛。 ●巻きひげは枝分かれする。 ●托葉に蜜腺がない。	
カスマグサ	●茎は30～50cmの高さになる。 ●茎に毛はない。 ●巻きひげは枝分かれしない。 ●托葉に蜜腺がない。	

◎ホウチャクソウ（宝鐸草） ユリ科

丘陵の雑木林などの樹間のひらけた場所に群生し、初夏に地味だが白から緑へのグラデーションが美しい花をつける。
宝鐸（ホウチャク）とは寺院建築物の軒先の四隅に吊り下げられた飾りであり、風鐸（フウタク）ともいう。花が垂れ下がって咲く姿がこの宝鐸に似ることによる。
若芽に有毒成分を含む。山菜として利用されるアマドコロやナルコユリの若芽と似ており、注意が必要であるが、ホウチャクソウは摘んだときに独特の臭気を発するため見分けは可能。

参考

アマドコロ

ナルコユリ

追加

地獄の釜の蓋に見えますか。

キランソウ（金瘡小草）
ジゴクノカマノフタ